

2024 スナイプジュニア世界選手権大会

アメリカ フロリダ州 マイアミ ココナッツグローブ
2024年1月2-7日

2024 SNIPE JUNIOR WORLD CHAMPIONSHIP

MIAMI, FL, USA | JANUARY 2-7, 2024

-レースレポート-



公式サイト: <https://jrworlds.snipechampionships.org/>

「最初で最後のジュニアワールド」

関西大学体育会ヨット部 2 回生 赤松佑香

この度、私たちのために多大なるご支援してくださり誠にありがとうございます。
昨年の全日本女子インカレに引き続き、今回は3名でこのクラウドファンディングを設立することになり、たくさんのメディアに取り上げていただきました。私の地元である和歌山でのテレビ番組・ラジオ番組の出演や新聞掲載、その他にもたくさんの方々が SNS での発信をしてくださりました。この活動を通じてたくさんの方にヨット競技というものを知っていただくことが出来たことも大変うれしく思います。多くの方のご協力のお陰でたくさんの方のメディアに掲載していただき、これまでにない貴重な経験をすることができました。本当にありがとうございます。

12 月 29 日 期待に胸を膨らませながら関西空港を出発いたしました。マイアミ空港までの直行便は無く、サンフランシスコ経由での所要時間は約 24 時間でした。

12 月 30 日の早朝にマイアミに到着し、先に到着していた日本チームの方々と合流することができました。日本からは 12 名参加しており、関西大学、同志社大学、慶応義塾大学、そして全日本インカレで 4 連覇している早稲田大学、名門校が多く出場いたしました。時差ぼけすることなく年末はしっかり睡眠の確保し、レースに向けてしっかり体を休ませることが出来ました。

年が明けた 1 月 1 日、ココナッツグローブヨットハーバーでチャーター艇の受け取りとレースに向けた艇の準備を行いました。

海外での初めてのレースでは会話は全て英語という事もあり言葉の壁を感じる部分も多く、勉強不足であったことを痛感いたしました。社会人になってからも英語は必須ですので今後はより一層学業においても頑張りたいと感じさせられました。

初めてマイアミの海を見た時、とても綺麗で水深が浅いのが印象的でした。海から見る景色もとても美しく、有名なマイアミビーチの後ろに大きなビルが立ち並ぶ景色は壮大で、海外に居ることを沸々と感じさせられました。

1 月 2 日 プラクティスレースが 1 レース行われましたが、フィニッシュすることなく帰ってしまう選手がほとんどで少しの海面の情報収集とマークの確認程度で終わりました。そのため、自分が取るべき順位や自分のレベルを把握することが難しく不安が残ったまま翌日のレースに挑むこととなりました。しかし本番では特に緊張することなくむしろ楽しみながら挑むことができました。乗り慣れないチャーター艇は、普段乗っている船のシステムとは異なるものが多くとにかく早く慣れるためにレース前の練習では何度も練習を繰り返し行いました。そして、ペアである江見さんとは一緒に乗った機会が少なく互いの特徴を理解することが重要だと思い、陸でも海でもコミュニケーションを続けることに努め

ました。それによってお互い打ち解けて仲良くなり絆を深めることができました。この事がとても嬉しくレースではリラックスして挑むことができ、改めてヨット競技は技量だけでなく人間関係も重要である事を学ぶことができました。

1月3日 待ちに待ったレース初日。予想よりも微風コンディションで予定通り2レース行われ、軽量ペアである私たちは自信をもってレースに挑めました。結果は14位で女子では2位という結果で終わりました。女子トップであるアメリカ選手とは4pt差で挽回できる余地のある位置なのでこの差を埋めるための完璧な船づくりやストラテジーを練り直し、明日以降のレースに備えました。

1月4日 本日は風の傾向を掴むのが難しく、20番台を取ってしまいとても苦しい戦いとなりました。普段練習している海は水深が深く風が強くなるにつれて波が大きくなるのに対して、マイアミは水深が浅いことによって波長が短くとても細かい波で船が叩かれやすい海面だったためベストスピードで船を走らせるのが困難でした。改善策として、メイントリムを細かく行うことに加えて船のヒールバランスの調整が必要であると考えられました。翌日以降はこれまで以上の強風予報が予想されていたため同じことを繰り返さないように努めました。

1月5日 昨日の反省点を生かした結果、安定して10番台を取ることに出来ました。しかし、女子トップであるアメリカ選手とは点差を縮めることなく、離されていく一方でした。レースで、その時に見えている海面情報や上空の雲の動きなどを読み取りコース取りを行っていたのですが、地元のアメリカの選手とは点差が縮まらないことから私は上位を走っている選手をより観察する必要があると考えました。

1月6日 強風予報であったものの吹きあがってくることなく、得意な軽風コンディションでした。昨日の反省点を踏まえて挑んだ1レース目はシングルでフィニッシュすることができました。しかし、スタートの際にリコール(フライング)していたためOCS(ペナルティー)を取ってしまいました。普段から監督コーチ陣から注意するように指導されており、私自身レースに挑む前には慎重に気を配っていたのにも関わらずこのようなことになってしまいとても悔しい思いでいっぱいになりました。この日も2レース行われたため、気持ちを切り替えて1レース目で学んだことを存分に発揮して2レース目も挑むことができました。

1月7日 あっという間に迎えてしまった最終日。残されたレース数は1レースで、このレースにかかる思いは選手全員強くなっていました。気持ちと同時に風も強くこれまで以上に強風コンディションでした。強風用に船のセッティングを変えたものの私たちにはオーバーコンディションで体格の良い選手も多いことからスピード負けをしてしまい最終レースは悔しい結果で終わりました。

レース内容は悔しいことが多かったですが、同時に多くのことを学ぶことができました。今回の遠征で他大学との交流含め、国を超えた友達作りができたことがとても良い経験となり、今後も繋がりを大切にしていきたいと感じました。

最後に、今回一緒にペアとして参加して下さった江見亜香里さんはじめ、ご支援して下さった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。このような経験は大人になっても一生の宝物だと思います。今大会の運営に携わって下さった皆様や、ホームステイを受け入れて下さったキャサリンには感謝の気持ちでいっぱいです。

この感謝の気持ちを忘れる事なく今後も挑み続けます。引き続き応援のほどよろしく願いいたします。

関西大学体育会ヨット部 2回生 赤松佑香

「海外レースを通して」

関西大学体育会ヨット部 2 回生 河野大陸

この度は私たち 3 人に多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。多くの方々によるサポートによって今回の世界大会に出場することができました。結果としては 18 位という不甲斐ない結果で終わってしまいました。初日は 7 位で終わることができていたが、海外選手の速さに圧倒されてしまいました。今まで行ってきたセーリング技術を出し切ることはできたと思っていますが、海外選手はフィジカルと戦術面の両方に長けていてスタートが日本のレースに比べてスタートラインが高く、自分の出たい場所をキープする能力が必要でした。ヨットはスタートがとても重要で、その後の展開がスタートによって大きく変わってきます。海外選手はその能力がとても高くスタートで負けてしまう場面がありました。上手くスタートすることの出来たレースもあったので、その経験を日本のレースでも実践することができるように励みたいと思います。スピードは海外選手に劣ることなく戦うことができていたと思いましたが、風が強い際に波に対してのアクションや動作などがまだまだ劣っていると感じることができました。スピードを感じる部分は人によって異なりますが、私は舵を握る役職についているので船のスピード感覚を一番に感じ取ることができます。スナイプ級という今回出場した艇種はあまりスピード差がないことで有名ですが、今回優勝したアメリカの選手はとても速く、すべての技術がとても高いレベルまで引き上げられていました。今回のレースを経験したことで、私の目指すべき高みを学ぶことができました。

ヨットレースはいかに 1 レースごとのポイントを低くしていくかが勝利につながります。私は 9 レースの中で一度しかシングルを取ることができずとても悔しかったです。シングルを取るということは日本の中でもなかなか難しいことですが、海外ではその思いをより一層強く感じました。日本語ではなく英語という言語の中で自分の意見の主張やルールの抗議などが伝わらずに歯がゆい場面なども多くありましたが、この経験を経てもっと英語を勉強して、自分の考えていることが伝わるようにしていきたいと思いました。これはヨットのみではなくて今回生活していた中でうまく相手に思いを伝えることができなかつたり、相手の言っていることがわからなかつたりすることがあったので、今後使うことがある英語を大学生のうちに勉強をして今よりももっと話せるようにしていきたいと思いました。自分の力の無さを思い知らされた大会でしたが、様々なことを経験することができました。各国に友達を作ることができ、ヨットの技術向上のために必要なことなど学ぶものは数多くあり、今回の大会に出場することができてよかったと思っています。今回共に出場した日本チームも全国の強豪校が集まり日本チーム一丸となって戦うことができました。各大学の良さを活かすことができ、お互いにサポートし合ってレースを終えることができました。前入り期間からお互いにコミュニケーションをとることができたので、初めて話す人でも

すぐに打ち解けることができました。

前入り期間の中で、海外での年越しを日本とはまた違った雰囲気味わうことができました。また私は食べ物の好き嫌が多く海外の食生活に不安を感じていましたが、様々な国の料理や日本でも実際にあるお店などもありそこまで食に困ることはありませんでした。レース日の夕食には各国のディナーが用意されており、毎日ワクワクが止まりませんでした。日本ではないチップを払う制度や、その地域限定の食べ物やお土産など様々なものがありとても楽しかったです。今回の経験を今回だけで終わらせるのではなく、今後の自分のセーリング人生や社会に出た後に生かしていけるようにしていきたいと思います。スナイプ級に乗ることは一時なくなり、これからは470級という艇種に乗っていくことになります。470級ではスピードをいかに出せるかが勝負のカギになってくるので、今回経験することの出来たスピード感覚を、470級で実践できるようにしていきたいと思います。

改めまして今回クラウドファンディングを通してご支援、ご声援を賜り誠にありがとうございました。今回は結果で示すことはできませんでしたが、今後は結果で恩返しをすることができるように頑張ってみますので、今後とも関西大学体育会ヨット部のご支援、ご声援のほどよろしく願いいたします。

関西大学体育会ヨット部 2回生 河野大陸

「Serious Sailing Serious Fun」

関西大学体育会ヨット部 2 回生 福永晃志

はじめに今回の 2024 年スナイプジュニア世界選手権大会の出場に際しまして、皆様から多大なるご支援をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。
本当にありがとうございました。長く拙い文章ではございますが、最後までお読みいただけますと幸いです。

2023 年 7 月に開催されました全日本スナイプ級ジュニアヨット選手権大会を経て出場権を獲得し、すぐに出場を決意いたしました。これは 2022 年に弊部の先輩方 4 名が、ポルトガルにて開催されました同大会に出場したということが私にとって出場を決意するための大きな判断材料の 1 つでした。世界選手権に出場するというセーリング競技に関わらずスポーツマンなら誰しもが憧れるであろう舞台に私も同様に大きな憧れがありました。アメリカのマイアミとは聞いたことはあってもマイアミビーチとセレブの街、そして 23 年 3 月 WBC で侍 JAPAN が世界一になった場所という以外は何も知らない場所でした。そんなところに行くのと即決できたのも先輩方の前例があったからだと思います。

本格的に準備を開始してから、航空券はどうするのか、何を持って行かなければいけないのか、宿泊はどうするのかなど本当に準備が山積みでした。しかし、やはりそんな中でも多くの相談に乗っていただいたのが監督、コーチはもちろんのこと、この大会を経験した先輩方でした。さらには、昨年の全日本女子インカレの出場にあたり部として初めての試みであったクラウドファンディングも今回立ち上げさせていただきました。これらのように先輩方が培ってきた多くのノウハウを活かし、今大会に出場するための準備を進めてきました。準備をする上で何か 1 つのことが決定していく度に大会に向けてワクワクする気持ちが大きくなっていきました。

そして 11 月上旬にクラウドファンディングのプロジェクトを公開させていただき、結果として 72 万 2000 円という大変大きなご支援をいただくことができました。本当に多くの方々から応援していただいているということに感謝するとともに、必ず結果で応えなくてはならないという気持ちになりました。

そして 12 月 29 日、いよいよ出発の日となり不安な気持ちは少々ありつつも楽しみの方が何十倍も大きいというような心境でした。西海岸のサンフランシスコを經由し約 15 時間のフライトの末、アメリカ東海岸のマイアミの地へと降り立ちました。そこは「サラダボウル」と表現されるように多くの人種の方が生活を営み、共生している、当然ではありますが日本とはまるで異なる光景が広がっていました。

年越しを海外で迎えるという初めての経験をし、元日から会場であるココナッツグロー

ブセーリングクラブへと向かいました。続々と他国の出場選手が会場入りし、運営の方々も準備を着々と進めておられる中で我々もなんとか英語を駆使しながら大会の受付やチャーター艇の受取を済ませ、会場がいよいよ大会が始まるというムードに移り行くのに引っ張られるように気持ちが益々高まりました。その日は艇体のチェックとレースに向けての準備をして終わりました。

そして1月2日、昼頃に出艇をし、マイアミの海を見ました。そこはビスケーン湾という海域でレースエリアとなっている海面は非常に水深が浅く、場所によっては海底まで容易に見ることができるようなエリアでした。そして14時になるとプラクティスレースが始まりました。もちろん初めて経験する海面であるため、風の特徴を何も知らないまま始まり、非常に苦戦しました。さらには、海外選手と比べてフィジカル面において大きなアドバンテージがあり、風速が上がるにつれてその差が顕著に現れました。大会期間は一定して良い風が吹く予報であったため、我々にとってはハードな戦いになるであろうと感じました。

レースが終わり着艇すると開会式の準備が進められていました。今大会には世界中の21歳以下、19の国々から46艇がエントリーしていました。日本チームは総勢12人、6艇で大会に臨みました。各国の選手がそれぞれの国の国旗を掲げ、国歌に合わせて入場し、我々も日の丸を堂々と掲げ入場しました。大会には国際スナイプ協会の役員、スナイプ級のワールドチャンピオンをはじめたくさんの来賓の方がお見えになり開会式は大いに盛り上がりを見せ、次の日から始まるレースに備えました。

1月3日から6日にかけての4日間は1日2レース、大会最終日となった7日は1レースを実施し5日間で計9レース、当初の予定通りレースが行われました。初日を含めて毎日我々日本チームはどここのチームよりも早く出艇をし、レースエリアで練習を始めました。他の選手が続々とレースエリアに揃い出しいよいよレース開始の時間となりました。46艇がレースエリアに集まり自身の心境としてはやや緊張があったものの何より印象に残っていることは、我々関西大学体育会を表すKAISERSの文字が入ったメインセールが何よりも目立っていたことです。この時KAISERSの一員であることを誇らしく思うと同時に良い順位を取ることでKAISERSの名を各国の出場選手のみならず、運営してくださる方々も含め世界にアピールできるチャンスだと思いました。実際に1レース目で5位となり、良いスタートダッシュを切ることができ、優勝や入賞もできるのではないかという思いもありました。しかし、現実甘いものではなく2レース目で22位、3レース目では13位となったものの、そこからは強風のコンディションが続き明らかなスピード負けをするなど20位前後を取り続けてしまう結果となり思うように成績を伸ばすことができませんでした。そこには、フィジカル面のみならず大きな技術の差もありました。

そして、普段行うレースよりも長いコース設定がされるなど、1日2レースといえども体

力的にも負荷の大きいレースでした。風の特徴を掴みかけても、また異なる風が吹く、太陽の照り具合や雲の流れを見ながら予想を立ててもそれが思うようにハマらないなど非常に苦戦を強いられる大会でした。しかし、レース会場をホームポートにしているチーム、初めての海面であるはずの他国の選手の中にはしっかりと結果を残しているチームもありました。初めての海面だったからとか、チャーター艇でいつも乗っている艇体とは異なっていたからなどということはもちろん理由にはなりません。単純に自分たちのセーリング力が到底及ぶものではなかったという以外にありません。最終結果としては全46艇中18位という結果で今大会を終えました。

閉会式では、各レースのトップ艇、18歳以下のトップペア、女子スキッパーのトップペアが大会全体の1位から6位の選手と合わせて表彰されました。大きな盾を受け取る選手を見るのは悔しい思いもありましたが、とにかく楽しかったという思いが1番でした。大会を通じて、海では全員が必死となりレースに挑み、レース後には毎日のようにディナーパーティーが行われ選手同士が楽しく会話をし交流をするなど、まさにスナイプ界のモットーである「Serious Sailing Serious Fun」がそこにはあり、私はこの言葉がより一層好きになり、スナイプというクラスの良さ、スポーツの良さを改めて感じました。

ご支援いただきました皆様には結果という形でお応えすることができず非常に悔しい気持ちになります。しかし、それと同時にこれからの自分にワクワクしている気持ちがあることも事実です。それは、世界のジュニアの大会ですらこれだけの大きな差を痛感させられたのに、ジュニア以外、スナイプ界のトップセーラーはいったいどれだけ技術を持ち合わせているのか、世界はどれだけ広いのかというワクワク感です。これは今大会に出場していなければ決して感じることはできなかった気持ちであると思います。もっとスナイプを知りたい、もっと上手くなってレースでトップを取りたい、そんな気持ちが大会を通じて何倍にも大きくなりました。

今後はこの大変貴重な経験をさせていただいたことに心から感謝するとともに必ずや自身の成長の糧として、残り2年間のヨット部での生活を過ごしてまいります。そして、さらにレベルアップをして関西はもちろん全日本の舞台でも多くの成績を残し、強い関西大学ヨット部になるとともに、皆様が応援したくなるような部を築き上げます。今後とも、関西大学体育会ヨット部の活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。この度は本当に多くのご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。

関西大学体育会ヨット部 2回生 福永晃志

- 最終成績 -

Snipe class (46 艇 / 19 か国)

1 位 USA 6-9-2-2-1-1- (13) -3-2 26pt

2 位 USA (47) (UFD) -1-7-11-3-8-4-2-3 39pt

3 位 USA (27) -5-25-1-7-4-6-4-1 53pt

:

18 位 関西大学 河野・福永 5-22-13-(47)(OCS)-17-18-23-23-19 140pt

20 位 関西大学 赤松・江見(同志社大学)21-12-24-26-12-19-(47)(OCS)-10-23 147pt

参加艇数/46 艇

- 現地での写真 -

